雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会
会議録（上長山小学校開催分）

平成２５年１１月１１日

雫石町教育委員会

平成２５年１１月１１日雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会を開催した。

場　所　上長山小学校１階ホール
時　間　１９時００分～２０時４０分

１．出席者

一般住民　　　２２人
報道関係者　　　２人（岩手日報社、盛岡タイムス社）

２．事務局から説明のために出席した職員

雫石町教育委員会教育委員長	上　野　　　宏
雫石町教育委員会教育委員	上　田　武　夫
雫石町教育委員会教育長	吉　川　健　次
雫石町教育委員会学校教育課長	高　橋　啓　二
雫石町教育委員会学校教育課主査	田　辺　　　茂

３．書　　　記

雫石町教育委員会学校教育課主任　　坂　井　一　博

４．開会宣言

田辺主査　雫石町立小学校適正配置基本計画についての説明会を始めさせていただきます。はじめに教育委員長から。

委員長　　夜分お忙しい中、また寒い中お集まりいただき大変ありがとうございます。ご承知のとおり少子化が早く進み、全国と同様、雫石町も児童数が急激に減少。平成24年度は850名の児童数が､わずか6年後平成30年は698名と700名をきる。その中で町内10小学校のうち、複式学級を持つ学校が半数以上の6校。複式学級は､2学年の子供達が同じ教室で学習を進める。少人数なので先生の目が行き届く、和気あいあいとした中で教育活動を進められる等、メリットもあるが、一方で沢山の子供達との関わりを持てず、色々な意見を聞きながら自分の考えを練り、新しい考えを生み鍛えることが、出来にくくなる。また1時間の中で2学年の授業を並行するので、先生の直接指導の時間が少なくなる。集団的な教育活動も出来にくくなる難点がある。21世紀の今、子供達に求められている力は、多様な考え方を学び、そこで自分の考えを練り鍛える。そして集団の中で表現するスタイル。これからは、学習集団として磨き合い、鍛え合える児童数の規模が必要。

そこで、町内の小学校を見つめ直し、適正な規模の小学校にと平成24年度に小学校適正配置検討委員会を設置、2月に提言書をいただいた。提言書を踏まえて教育委員会として、6回会議を開き検討した結果が、本日の基本計画。私共は、子供達の教育環境をよりよいものにすることを第一に考え、検討した。質問や前向きなご意見等をいただき、基本計画をより良いものにできれば大変ありがたい。

田辺主査　〔説明会参加の事務局の紹介〕

学教課長　〔以下、適正配置基本計画を資料に沿って朗読し、内容を説明〕

田辺主査　5.質疑。皆様からご質問、ご意見等を賜りたい。挙手にて発言をお願いします。

参加者　　適正配置検討委員会の委員は誰か。雫石町在住の高橋繁さんとは誰か。教師か。

学教課長　委員の名簿は裏面に記載。高橋さんは中学校の教員、沢内村教育長、西和賀町長をやられた方。今、晴山に在住。

参加者　　教育委員は入っていないのか。今日までの経過も簡単にお願いします。

学教課長　教育委員はメンバーに入っていない。平成24年7月に1回目を開催。一方的だったが、子供の減少部分の説明。教育委員会としては、財政部分でなく子供にとって一番いい教育環境とは何かを基本として、検討をお願いした。2回目は、一番小規模の橋場小で複式学級を視察したのち、七ツ森小で単式学級を視察し、意見を出していただいた。3回目は進め方と出された意見の提示。雫石町の1学級規模は単式という結論。国では、クラス替え可能な2クラス以上の人数を適正としているが、雫石町は、単式としても、ある程度の集団になるので、その中での生活という結論で提言書をいただいた。

参加者　　それは、委員の総意での提言書ということでいいのか。教育委員会の総意ではないのか。

学教課長　子供が、育つ環境がどうあるべきか、教育環境を第一に考える部分は、総意。ただ、地域ごとの話し合いになると考え方は、異なる可能性も。ただ、出されたものは総意と捉えている。

参加者　　町職員に質問。子育て支援対策に関して、子供の減少で大変な時代だが、保育所の問題について。サラリーマン家庭が 10 ポイント、専業家庭が 8 ポイントで、とポイント制で、最初から 2 ポイント少ない設定。保育所に入れられない状況で子供を作れと言われても作れないし、預けられない。だから、アルバイトで給料を貰って 10 ポイント側に。町長に直談判した方もいた。福祉課では対処できないので、町長にお願いにも行った。こんな話が、あっていいのか。西山保育園は町内の他地区からも結構来ている。西山に住んでいるのに役場で作った勝手なポイント制で基準に満たず、入れないと。

学教課長　やはり、国の基準については回答出来ないが、町独自の入所基準は、変更可能な部分もある。どうしても厚生労働省と文部科学省と縦割りがまだある。子育て会議を設置し、これから色々協議されるかと。子育てしやすい町となれば、当然、転入も増えるはず。対策を講じていかなければと考えている。福祉課なり町長にも話をしていく。

参加者　　鉄筋の学校の耐用年数とは何年ぐらいか。

学教課長　鉄筋コンクリートの場合は 50 年。

参加者　　説明会にあたり、先週 PTA に周知してくださいと来た。地域は、意見を聞く立場。広報に載せただけで区長さん等に連絡は何もない。こちらで区長さんにお願いして地域の皆さんに集まっていただいた。町全体の意見を聞く立場でありながら町民に周知しないのはいかがなものかと。これは、教育委員会の不備。地域の皆様の理解を得るということだが、これでは非常にまずい。もし、人数が集まらなくても理解を得たとするのか。区長、公民館長等組織があるので、情報を流せばそれぞれの行政区の町民に伝わる。それを怠ったことはまずかったと思う。より多くの意見を聞き、それを尊重して今後進めるためにもその辺もう少しお願いします。

学教課長　大変申し訳ございませんでした。広報は、町として周知する一番の手段かと思っていたが、どうしたら見られるかと。広報の作成自体、検討の必要があるなと。以後、気をつけます。次回はそう対応させていただく。

参加者　　私も学童クラブを利用しているが、下長山小は、プレハブで狭い。子供達も狭いから嫌と。統合後、あの狭さだと無理がある。何か対策されるか。

学教課長　利用者が増えれば必要なスペースも当然増える。それについては福祉課と調整し、もう少し大きく広くといったことを手立てとして行わなければと考えている。

参加者　　統合に反対ではないが、データを見ると、大村小、安庭小、南畑小は人数が少ないが、上長山小、下長山小、御明神小はまだ人数は多い。なぜ、今回雫石町で一気に統一しようとするのか。失礼になるもしれないが、例えば、今本当に少ない南畑小や大村小、そこを統合するにしてもアンケートを取った方がいい。結果は分からないが、3 年後に直接関係する学校同士で問題なくできるはずだし、疑心暗鬼に見守るだけでなく、アンケートでデータ収集をされたらいいかと思う。

参加者　　結局、地域住民や現在の PTA は説明を聞けず、新聞の紙面で統合を知ったが、なぜ先に地域や PTA に説明しなかったか。

学教課長　町にとって 1 番は複式学級の解消で進めること。複式学級を有する学校は、統合したいという捉え方。アンケートは、現在の保護者に対するアンケートがない状況で進めた。大変申し訳ない。ただ、適正配置のアンケートは、19、20 年のデータ。反対の割合が 3 割、隣接した学校との統合 3 割、あと 3 割は学区を見直して統合と。適正配置を検討した方がいいという意見が、約 6 割。本来だと、今アンケート調査をすべきだったが、しないまま前のデータをそのまま活用。今までだと、統合は、タブー視される部分があった。教育委員会として、まず子供にとって一番いい環境を考え進めてきた。これから皆様の理解を得るために何度でも足を運びたい。アンケートを取った方がいいのであれば、実施計画前に調査したい。

参加者　　前回も参加。出た反対意見に教育長が、また更に反対意見を述べてくださいと言った。反対意見にさらに反対意見を述べるとは、どういうことか分からない。

教育長　　反対意見は、なぜ反対かを言っていただく。ただ、反対だと言われても困るので、なぜ反対か分かれば受け止められる。別な形での解決の意味で言ったつもりだが。

参加者　　皆さん、結構、上長山小という意見を述べたはずだが、統合ありきと頭から押し付けているみたいにしか聞こえない。あの時も意見があって、昔の西山中の跡地に作れないかという意見もあったはずだが、予算的な話になってしまって。耐用年数は、50 年でしたか。学校があるとしての話、あと 3 年後には築 30 年。あと 20 年後で 50 年。統合して 20 年後に建てる。となった場合は、やはり下長山小に建てる。

学教課長　あとは、人口や児童数の状況がどうなるのか。

参加者　　結局、雫石の小学校を 2 校ぐらいにしようとしているのが見え隠れしている。

学教課長　当然、前提ですが、統合しても複式や小規模校になってくるのであれば。

参加者　　だから、正確な方へ進めるのが本当ではないかと。教育委員会は、統合したがっている。反対されるのが嫌でアンケートを取らないのでは。前のアンケートも地域住民は、知らなかった。今改めてアンケートは無理か。色々な意見あると思うが。

学教課長　前は、平成 22 年 9 月に実施の保護者からの回答なので、検討委員会の当時は、平成 24 年なので 2 年経過したもの。改めて実施は可能。

参加者　　学校に関係するアンケートは、ほぼ PTA にしか行かず、住民の思いはたくさんあってもアンケートが来ない。極楽野で地域の会長をやっているが、やはり地域との関係、つながりを考えると、一概にいいよとは回答できない。地域がどう考えているか、意見を聞きたい。その後、必要であれば 1 度地域で集まって、話し合ったりするとも思う。PTA もアンケートの回答は、きちんと出して集計してほしい。あとは、検討委員会では、複式でなく単式で方向性を出しているが、この際 1 校にという考え方だって出てくる。1 校は、中学校の前例があるので、問題やトラブルが起こると考えると非常に大変。北と南に 2 校に分けるとかそういう案もある。費用対効果、教育レベルの向上、そういうあたりバランスを見て、やはりこれがいいということにしてもらわないと、他人行儀な提案では困る。

学教課長　雫石町では、今の児童数からいくと、文部科学省基準の適正規模で言えば、2 校。2 校になれば、今の雫石小の学区を半分に分ける作業が出てくるし、雫石町の場合は、行政区単位である程度学区を作る部分もある。

参加者　　地域住民とのつながりは大きく見られるから別にいいよ、となる可能性もあるし、検討不足と見られるかもしれないし。当面は決まらないから、色々意見を聞いて、学校のことだけではなく、当然、地域にも聞いて。

学教課長　どうしても、今回は、教育委員会として学校教育の部分で捉えてこうなった。

参加者　　現在の複式解消ということで、教育長、委員長、事務局は今の人数では複数の考えが出ない、団体競技もできないという欠点があると。ただ、今の統合案を見ると、せいぜい 1 クラス 12～3 人。この程度で掲げる教育の理念にかなう方法か。

委員長　　複式学級を考えた時に、やはり子供達の学習環境としては非常に難しい。同じ学級で 6 年生が学習して、5 年生がまた別の学習。1 時間単位の中で半分ずつの学習時間であとは自習。自習すれば、むしろ学ぶ力がつくとも考えられるが、ロスもあり、やはり複式学級はマイナスかと。それから、10 人以上だと様々な意見が出やすい。20～30 人だと今度は多い。多くても小グループに分ける必要もある。そういう点で、雫石町では 10 人の子供達との学習活動としたい。

参加者　　国も 35 人学級を目指す方向性があるわけで、やはり町としても国の目指す方針に乗るような形で進めていったらどうか。

委員長　　雫石の実体として 35 人学級は、児童数に照らして難しい。文部科学省でも相当な年数をかけて 45 人から 40 人まで戻し、今度は 35 人学級に。これも何年掛かるかわからず、ようやく全国の学校が 35 人学級に。先生方は 1 学級 35 人でも子供達の集約は非常に難しい。欧米では 30 人以下の学級。国もこれから徐々に 1 学級の児童数を減らす方向。それともう一つは、雫石の実体として 35 人にこだわった統合は非常に難しく、本当に 1 校となる。1 校でも 35 人は出来ない。雫石なりの

1学級にしたい。そこで、様々な意見が出るような工夫をしていくことが大切かと思う。

参加者　複式を解消して10人程度ではなく、子供達の教育を考え、教室で多様な意見を出し合うとすれば、20人や25人程度の規模を確保した上で統合すべき、と私は思う。

委員長　そうだと思うが、実際に雫石町では、難しい。地域もある。これまでのつながりある地域の中で、それを全部切って子供達を集めてとはならないと思う。

参加者　問題はある。でも、今の統合でも話されたことは出てくる。地域を切るということ。もう一度、何年後かに統合となれば、実験してみてもいいのでは。

参加者　まず、アンケートをやってほしい。私達も地域が、何割賛成で何割反対か、実際どう思っているか意見を聞いてみたい。あとは、この会を2回、3回開催して欲しい。今、25年度の11月、26年度の準備委員会に向けて、少し無理があるスケジュールかなと。28年度を目指すとすれば、こうなるかもしれないが、我々はデータ等今日初めて見て、これから色々考えていくかが、ものすごく重要かと思うので。

教育長　アンケートは、これから考えたい。平成19、20年には町民全員に実施、2年後は、PTAの皆さんを対象に実施したため、24年度の検討委員会時は改めて取らなくてもいいと、進んできた。今の皆さんからの意見を受けてやってみたい。

参加者　単式と複式の学級で、点数の差異があるものか。

学教課長　全国学調等の調査は、適正規模だから高いということは全くない。逆に小規模校が、高いといったこともある。ただ、それだけではなく、子供達の学習活動を考えると、ある程度の集団行動、集団の中から得る社会性は、小学校から経験させたい。特に小規模校でのチーム運動となると、1～6年生合同であるとすれば高学年は、力を出しきれない状態と考える。やはり、子供達が成長の段階での教育活動の幅が狭まっていると捉えている。あとは、学習発表会等、小規模と大規模では自分の役割を持って色々活動する点では、子供達の精神的な成長部分では、違うかと捉えている。

上田委員　私も西山出身ですから、上長山、下長山、西根の現状は昔とほぼ同じ。人数が多かった私達の年代から見ると、運動会には、これしか出ていないのかとか、野球でも学校で1チーム作れないのかとか、残念に感じる。複式は、私達の年代では全く想像がつかない。色々な場面で複式の授業を見ると、3～4人の範囲での色々な考えが出るが、それ以外には聞けない。考え方としてもう少しあるのではと思っても全然出てこない。5人いれば5人からしか出ないから、やむを得ない話。それを考えた時に、この規模であれば友達がいいと言えば、それでいいのかなと心配になる面もある。

参加者　私は、適正配置検討委員会に参加。この説明会に先立って、PTAで意見をまとめ

ようとの話も出たが、私もそこまで考えておらず、反対なら説明会で反対すればいいと思い、何も取りまとめなかった。アンケートの話もあったので、そこは申し訳なかった。簡単に地域を考えると、意見が違うので反対。子供達を思って、単式がいいか、複式がいいかを考えるべき。複式よりは単式だろうと簡単な思いから意見をいただいた経緯もある。あとは、校舎がどこかとか、あそこは行きたくないという話も散々聞いた。予算が関係ないなら、西山中の跡地に新校舎を建ててくれと、建てれば誰も文句は言わないと私も言った。今回、説明会をしていただき、反対意見も含め色々な意見が出たが、完全にこれで決まったわけではないですよね。これは、教育委員会の案であって、あと地域住民の皆さんの意見を聞いて、どのようにしたらいいかという話。もっとこうして欲しいとか気軽に意見を出してもらいたい。教育委員会は、教育委員会として子供を思って考えているでしょうし、地域の意見は、これ以外にも色々あると思うので、時間はかかるかと。

参加者　せっかく来たので、思っていることを言う。上の子の小学校時代が PTA 会長で、学校から、先生と PTA と地域の三位一体だと言われた。上長山小で複式が始まったのが、2 番目の娘の時が最初。確かに地域のことも大事だが、いざ自分の子供が複式になった時のショックが大きかったのは事実。私が、上長山小にいた時の学年で 20 人以上いて、それがこんなに減る学校になったと衝撃だったのは、今でも記憶にある。複式を解消の思いでの統合も分からなくはないが、その三位一体で作る学校のデリケートな問題を 28 年度という数字を出して進んでいる中で、地域のことを置いてきたことが不信感を得てしまい、この状況ではけんか腰になるのも正直仕方ないかなと思う。自分の住んでいる上長山地域のことで話せば、人数が少なくても小学校の子供達が朝通って、帰りにまたランドセルを背負って帰る姿に勇気づけられ、それを活力としているお年寄りや地域の人がいる。スクールバスが学校から出るとなると、子供達の通学風景はなくなる。それぐらいで地域の活力が抜けてしまうから、地域の人が納得いくようみんなで話し合い、進めてもらえれば。その中で、色々反省点や校舎の場所とか様々あると思うが、そういう意見も聞いて期限も設けないでほしいが、今回の計画書は、すでに決定なのか、変更の余地はあるのか。

学教課長　あくまでも案です。

参加者　最低限、そこから始めてもらえれば。これからの人達の意見も聞きながら検討してもらいたい。噴火の件は、今一段落して子供達が元気に通っている中で、危ないからと上長山小はダメと言われても。子供達を危ない所へ毎日通わせているのかとなるし、現実として今まで被害もないわけで。マップで見れば簡単だが、火山の問題が起こった時点でどうにかすべきだった。学校であれば、危険な所より安全な所が当たり前。火山の問題を除けば、子供達にとってロケーション的に

雫石町内の教育の場所として、環境的にここほど良い場所はないと思う。下長山小が、街に近くて便利な部分もあるかと思うが、安全と雫石の教育として、葛根田川や岩手山地帯など、子供達を育てていける自然環境から離すのも勿体ない。あとは、もし上長山小を使わなくなったとしても、地域活性化のために何かに使う。決して何もない地域にはしない、という具体案を全部出してもらい、一緒にそれを掲げてもらえれば地域の人達も納得するかと。そのあたりも並行して案等出してもらえれば話が進むのではないか。

学教課長　その通りです。跡地利用も町全体で考えなくてはならない部分もある。当然地域の意見も集約し、どう利用するか。その際は色々意見出していただければ。

質問者　　上長山小は、火山マップで危険な場所等悪いところを引いて、欠点の少ないのが下長山小と検討。上長山小は、校舎内に学童クラブがないと教室の数が揃う。そもそも下長山小の学童は、作り直しが必要。駐車場も整備が必要。経費がかかるなら、上長山小も作り直してできるはず。火山も危機がある場合は対応できるのでは。

学教課長　色々な意見が出た。あとは、西根小と下長山小からも出てくる。改めて苦渋の選択をし、やらないとこのまま複式。本当にいいかどうか含め、皆さんで考えていただきたい。当然我々も考慮し、跡地利用も検討し、地域の活性化になるものを持って来ながら何度でも足を運びたい。さらに、下長山小に一番近いのは雫石小。一番遠いのが上長山小。そうすると、区域外就学をする子供が増える可能性もある。子供に通学の負担をかけないために雫石小への指定校外通学を許可しなければならなくなる。そうすると西山地区の児童数が若干減ることも考えられる。

参加者　　現在、雫石小に通う下長山小の児童は。判断は、距離か。行きたいと行けるのか。

学教課長　農協の少し北の辺りの林崎全部ではないが一部、雫石小に近いということで。それなりに距離が違う場合、通学の心配を軽減させ、安全の確保を考えれば近い方が子供にとってはいい。申請があれば、許可せざるを得ない。

参加者　　児童クラブが校舎内にあるため教室が不足し、短所と。学校の教室が広いから児童クラブとして使っているのに、それを短所に書くのはおかしい。もし、短所ではなく、単に学校に入っている、なら分かるが。下長山小の施設は、増築をすれば自信を持ってお勧めできる。上長山小でも学校が統合して手狭になったら、新しいものを作らなければならない。それならどこに行っても変わりないと思うが。

学教課長　増築と全部の新築かの違い。

参加者　　あとは、早く進めたい中で、とりあえず1年置いて、平成28年4月と計画を立てたかと。ただ、今回上長山小から始まって、具体的に皆様の意見がある。PTAからも住民からも反対意見が大多数。そうなると、この時点では始まらない。また

検討した上で、年明けて 2〜3 回やってある程度地域の皆さんの理解をいただき、次にその話を持っていくべきで 2 年見ていると思う。例えば、私達にある程度説明して、後は勝手に進めますという感じにはならないですよね。

学教課長　教育委員会としては、子供達にはできるだけ早くという思いはある。

参加者　　今日の説明会の意見を皆さんには、お知らせするのか。

学教課長　当然、出た意見は、会議録で示す。全体が終わったら集約して広報等に載せたい。

参加者　　これらは、出ていた問題。割愛とかではなくなるべく全て出してほしい。

参加者　　減る方向かとは思うが、増やすことを考える対策はないのか。

学教課長　それについては教育委員会だけでなく、町の総合計画でも定住促進といった対策もする。そのために何をすべきか。やはり、子育てしやすい地域づくりと町づくりをしなければならない。相対的にどうすれば人口を維持しながら、子供達を増やし、安心して子供を守り育てられるか。策を講じなければならない部分がある。

参加者　　念押しです。これがスタートでよろしいか。上田委員さんも地区の代表として。

上田委員　地区の代表とは違うので、その点は誤解しないでほしい。正直、個人的には色々な方の話をこういう話題になった時点で聞く。でも私達は、子供をどうするかをまず考えないと、そっちはどうでもいいとはいかない。やはり子供が第一で地域の人達もみんなで考えてどうするかの方向に持っていく。それぞれ色々意見があっていい。子供達をいい方向に向かせるための方法がいっぱい出てくればいい。

参加者　　そういう機会を沢山設けていただくという形で。

５．閉会宣言

教育長　　今日は、こちらの考えを話し、皆様からも色々意見をいただいた。ここで終わりではなく今日が始まりということで。今日が 3 ヶ所目、10 地区で実施し、色々な意見が出され、もう一度我々で話し合ってアンケートも取りながら、これからどうしていくか進めていきたいと思う。先程の説明にも文部科学省の適正化の基準からいくと、雫石町は 1 校或いは 2 校あれば適正配置の規模になっている。雫石町の成り立ちは、旧 4 町村が一緒になっての雫石町。最低でも旧町村に 1 小学校を残したいと考え、このような 5 校の原案で出している。県内でも複式学級のある学校が減少、先生方の異動も複式経験のない先生方が複式学級に転勤して来られ、2 倍以上の勉強をして大変な苦労をされながら、授業を行っている現状。できれば、最低 10 人以上の学級があるような学校にまとめていきたい。上田委員からあったように、子供達を第一に考えていきたい。先程の統合ありきということではなく、子供達の教育にとって何が一番いいかを考えていただき、疑問点があ

れば解決できるところは解決していく。地域での運動会がなくなってしまうのではと出たので、いや、地域で是非運動会を開催すればいいのではと思ったりもし、それからそれぞれの地区の素晴らしい伝統芸能を生かしながら子供達を地域の皆さんと一緒に育ててもらえば非常にいいと考えている。後日皆様にご理解いただけるような形の原案を持ってまた来たい。よろしくお願いしたい。